

Title	3歳児が幼稚園生活に適応するプロセス I : 就園前の子どもの養育環境と幼稚園生活への適応に関する調査
Author(s)	相川, 徳孝
Citation	聖学院大学論叢, 12(2): 1-23
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=511
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

3 歳児が幼稚園生活に適応するプロセス I

——就園前の子どもの養育環境と幼稚園生活への適応に関する調査——

相 川 徳 孝

The Process of Three-year-old Children Adjusting to Kindergarten

Noritaka AIKAWA

A three-year-old's process of adjustment to kindergarten is greatly influenced by the environment in which the child has lived for the three years after it is born.

This research aims to investigate what kind of environment children have been brought up in before entering kindergarten. As a result of this investigation, it was discovered that a large percentage of mothers had experienced infant-rearing anxiety.

It is necessary to build trusting relationships between mother, child and teacher so that the child can adjust smoothly to kindergarten life.

はじめに

5 歳児から 3 歳児における平成 4 年度から平成 10 年度までの幼稚園在園児数の推移⁽¹⁾を見てみると (表 1), 出生率低下のため 4, 5 歳児は減少しているが, 3 歳児は園児数が増加している。同様に 3 歳児の幼稚園就園率⁽²⁾を見ても, 昭和 30 年度の 2.9% から昭和 47 年度の 5.6% を経て, 昭和 57 年度の 11.4% へと着実に上昇し, その後, 平成 2 年度の 20.1% へと急速な伸びを示している。このことから現在では 3 歳から集団生活の場である幼稚園に入園することが一般的になりつつあると言えよう。

出生率が低下しているにも関わらず, 3 歳児から幼稚園に入園する幼児が増加している理由には子どもを取り巻く養育環境が変わったことと, 3 歳児の発達的な特徴の 2 つの側面をあげることができる。

子どもの養育環境の変化, 特に核家族化, 少子化は家庭や地域社会において同年代の仲間と遊ぶ機会や友達と関わる場を得られにくいという状況をもたらしている。

Key words; Care and Education of Three-year-olds, Adjustment in the Group, Separation Anxiety, Infant-rearing Anxiety

表 1 過去 4 年間の年齢別在園者数 (人)

		平成 7 年	8 年	9 年	10 年
3 歳児	計	341,515	346,675	350,401	371,313
	国立	1,120	1,124	1,132	1,167
	公立	13,236	15,784	17,957	21,339
	私立	327,159	329,767	331,312	348,807
4 歳児	計	689,807	693,668	682,115	673,090
	国立	2,880	2,877	2,863	2,848
	公立	136,887	138,355	139,336	138,274
	私立	550,040	552,436	539,916	531,968
5 歳児	計	777,110	757,708	757,007	741,730
	国立	2,778	2,826	2,808	2,808
	公立	211,539	206,029	203,337	200,241
	私立	562,793	548,853	550,862	538,681

(幼稚園年鑑平成10年度版より抜粋)

また、3 歳という年齢は、今までの母親に依存した生活から脱け出そうとし、ひとり遊びや友達への興味を持つようになってくる時期である。日常の基本的な生活習慣が徐々に確立し、自立に向かう時でもある。自分の意志がはっきりしてくるに伴い、必ずしも親の思い通りには行動せず、いわゆる第一反抗期と呼ばれる特徴を示すのもこの頃である。黒丸⁽³⁾はこのような 3 歳児の姿を捉え、「3 歳児は第二の誕生である」とし、それは真の意味における人間としての「心の誕生である」と述べている。

言語能力が飛躍的に発達していくのも 3 歳児である。そしてそれまでの一方的な話しかけから会話が成り立ってくるようになり、言語という一般的なコミュニケーション手段を持つようになってくる。藤永⁽⁴⁾は 3 歳児のこのような言語発達を「まったく新しい対人関係を結ぶ可能性を 3 歳児がもつようになったことを意味する」とし、未知な大人に対しても愛着を抱く機会が生まれ、新しい友達を獲得することでもできるようになってくる時期であると指摘している。

これは母子関係を中心とした家族での人間関係から、集団生活の場である幼稚園、保育園に移行し、そこで出会う教師や保育者、仲間と新しい人間関係を結んでいくための精神的、肉体的な準備が整ってくる時期として受けとめることができる。

このような 3 歳児の生活環境の広がりや言語能力の発達は新しい対人関係の場によって初めて満足させることができる。また、すでに述べたように少子化の中では兄弟関係も仲間関係も微弱であり、このため、従来、複雑多様な兄弟関係あるいは仲間関係の中で、生活を通して自然に身につけ

ることのできた自己主張、自己抑制など対人関係の基礎が現在の家庭生活ではいちじるしく得難いものとなってしまっている⁽⁵⁾。

幼稚園はこのような課題を提供する場である。幼稚園は幼児1人ひとりが他者との信頼関係を築き、安定した情緒のもとで、教師や友達と生活する中で、共感し、支え合うという人と関ることの基本的な在り方を学ぶところである⁽⁶⁾。

地域の育児力の低下、少子化、情報化社会にあって、人と触れ合い、育ち合うことの経験が乏しい現在では3歳児から幼稚園に入園させる意義がここにあるのである。

I. 研究の目的

初めての集団生活の場である幼稚園に就園する3歳児の子どもたちは、幼稚園に入園するまで家庭において、多くの場合、母親を第一義として家庭内の成員との関係はすでに形成され、その安定した関係を拠り所として外の世界に踏み出し、同年齢の子どもたちとの関係形成について、さまざまな経験をしている時期である。そしてその経験を土台として、幼稚園においてさらに仲間との関係を量的にも質的にも豊かにしていくことが求められている。しかし、現在の日本において、3歳児の就園率の高さの原因としてあげられている少子化現象は家庭や地域において子ども同士が関わる場や機会を得ることを困難にしてしまった。このような養育環境の中で育ち、他者と関わる体験が乏しい子どもたちは幼稚園において、どのようなプロセスを経て幼稚園という家庭とは異なる場を自分のものとし、主体的に他者との関係に入っていくのであろうか。

本研究では、3歳児が幼稚園に適應していくプロセスを下記の3つのテーマから検証していく。

- I. 幼稚園入園前の養育環境について
- II. 幼稚園入園時の分離不安について
- III. 仲間関係の広がり

今回は幼稚園入園前の養育環境ということに焦点をあて、幼稚園に入園する前の子どもたちがどのような養育環境の中で育っているのかということと、幼稚園に入園した後、どのようにして幼稚園の生活に適應していったのかということアンケート調査を通して明らかにしていく。

II. 研究の方法

- (1) 調査期間：1998年10月9日から10月27日
- (2) 対象：大宮市郊外にあるM幼稚園とU幼稚園に在籍する3歳児保育から入園した母親を対象にアンケート調査を実施した。
- (3) 材料：子どもと保育総合研究所の「母親の子育てと幼稚園教育のありかた」（1998）と

全埼玉私立幼稚園連合会の「彩の国の幼稚園と家庭の連携と子育てに関する調査」(1998)を参考とし、27項目からなる質問紙を作成した。詳細は本稿末にアンケートの調査用紙を添付しているが、調査の大きな柱は次の5点である。

- ① 子どもと家庭について
- ② 幼稚園に入園する前の子育ての様子について
- ③ 幼稚園に入園した時の子どもの様子について
- ④ 幼稚園入園後の子どもと母親の変化について
- ⑤ 子どもが初めて幼稚園に入園したことに対する母親の感想(自由記述)

(4) 手 続 き：調査票がM幼稚園では90部、U幼稚園では150部、園を通して配布し、回収された。回収された調査票はM幼稚園では80部、U幼稚園では140部であり、回収率はM幼稚園では88.8%、U幼稚園では93.3%、全体では91.6%であった。

Ⅲ. 結 果

1. 子どもと家族について

調査対象者を3歳児で幼稚園に入園した子どもと限定したため、入園時の年齢はすべて3歳であった。子どもの性別を見ると図1のように男児が130人、女児が92人であり、男児が全体の59%を占めている。

兄弟数は図2のように「2人」というのが全体の65%(144人)であり、いわゆる1人っ子は16%(36人)と少ない。

兄弟関係を見てみると図3のように第1子が第2子である場合が多い。これは兄弟数が2人であることがほとんどであり、その場合、必然的に第1子が第2子になるためである。

図4と図5によると両親の年齢は平均すると父親は36.1歳、母親は32.9歳であり、もっとも多い年代は父親が36歳から40歳代であり、母親が31歳から35歳代で、それぞれ全体の47%を占めている。

家族構成については図6のように核家族が多く、全体の89.5%(197人)を占める。以上のことから、大宮市近郊の家族像は夫婦と子ども2人の核家族世帯であることがわかる。

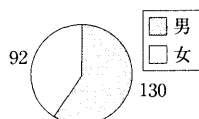


図1 子どもの性別

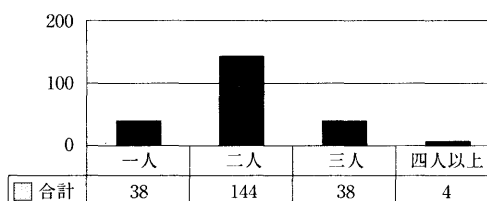


図2 兄弟数

3 歳児が幼稚園生活に適應するプロセス I

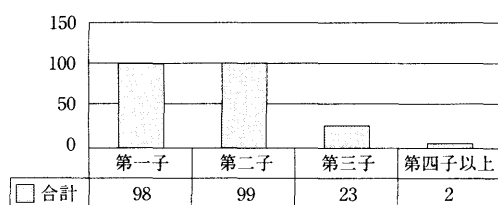


図3 兄弟関係

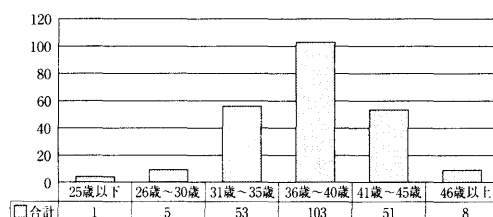


図4 父親の年齢

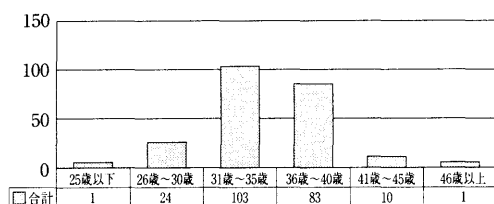


図5 母親の年齢

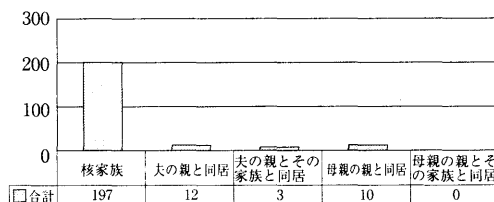


図6 家族構成

2. 幼稚園に入園する前の子育ての様子について

「子育ての中心」は図7のように母親が100%であり、子育ての責任が母親1人に集中している。「幼稚園に入園する前、子どもによく遊ぶ友達がいたか」に対しては図8のように74%にあたる163人の子どもが「いた」と答え、その数については図9のように3人というのが最も多かった。

「どのような場所で知り合って、友達になったのか」という調査では図10のように「家が隣近所であった」という回答が110であり、全体の50%を示し、その次に「公園」が続いている。

「よく利用した公共施設」としては図11が示しているように、「公園」が最も多く、全体の85% (186人) を占めている。公園などの公共施設に出かけていく割合は図12に見られるように「毎日」というのが66人で全体の30%を占め、3人に1人は毎日出かけているという結果である。1% (3人) ではあるが、「行かない」という回答もあった。

「子どもが同年齢他の子どもと一緒にあった場合、子どもはどのような関わりかたをするのか」に対する回答は図13のように、「他児に関心はあるが自分から関わりを持とうとしない」という態度が86人であり、全体の40%を占めている。「自分から積極的に友達と関わる」というのは58人であり、全体の26%であったが、その反対に「他の子どもがそばにいることを嫌がる」という回答も48人あり、22%を占めていた。「その他」というのは、その時の状況によって態度が異なるということであり、回答を1つに絞れない結果であった。

では、「子どもを連れてくる母親に対して母親自身はどのような態度でいる」のであろうか。

図14によると「自分の子どもと遊んでいる」が最も多く39.5% (87人)、次が「自分からは声をかけないが、かけられればそれに応じる」ということであり38% (84人) の割合を示している。「自分から積極的に関わる」が55人で全体の25%であり、全体的に積極的に友達を作ろうという姿

3歳児が幼稚園生活に適應するプロセス I

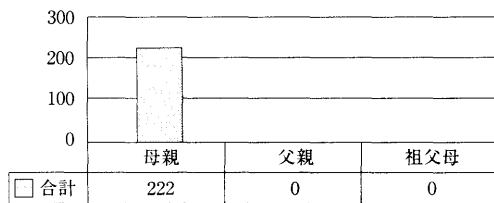


図7 子育ての中心

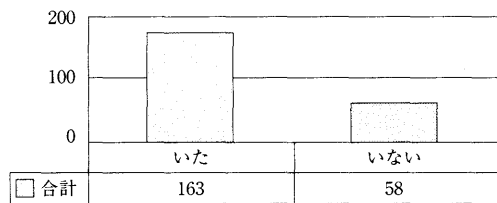


図8 入園前の友達

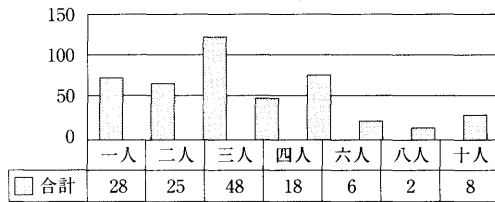


図9 入園前の友達の数

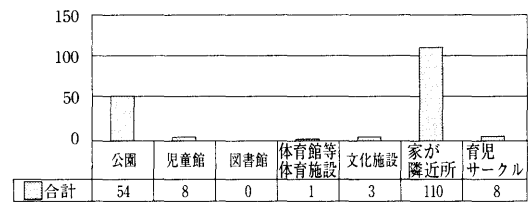


図10 友達になった場所

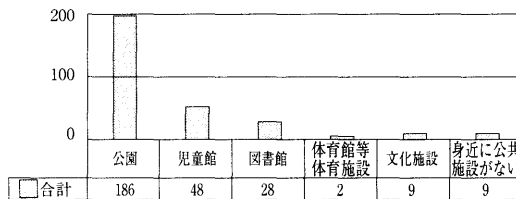


図11 よく利用した公共施設

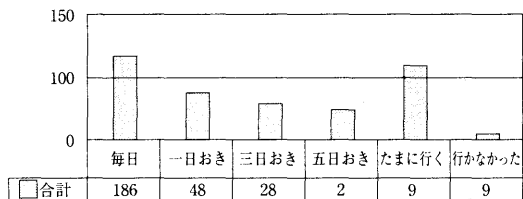


図12 外出する割合

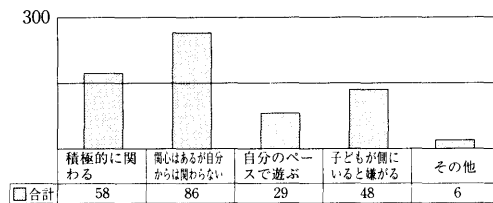


図13 同年齢の子どもとの関わり

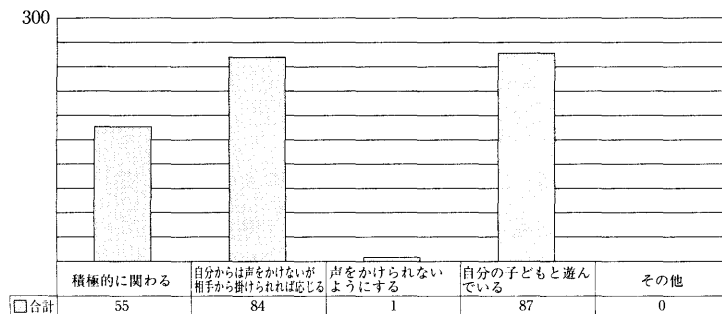


図14 子どもを連れてくる母親に対する母親の態度

勢はあまり見られないようである。

次に「幼稚園に入園する前に何か習い事をさせていたか」という質問に対して、図15のように70%に当たる155人が「していない」と回答し、66人の子ども（全体の30%）が何らかの習い事をしているという結果であった。

「習い事の内容」については図16に示す。スイミングと学習教室がそれぞれ20人、19人と全体の約3割を占めていた。「習い事をする理由」としては図17に見られるように「本人が気に入っているから」という理由が最も多い32人で全体の48%を占めている。「将来役に立つ」という理由がその次に続き、「友達がいなかったから」ということで習い事を通して友達を作ろうとしている者も12人おり、全体の18%を占めている。

母親の育児不安については図18に見られるように全体の78%にあたる175人の母親が「あった」と回答している。「育児不安の内容」については図19に示してあるが、それによると最も多かったのが「子どもの発達や性格、癖などに心配がある」であり、全体の49%（108人）を占めている。「自分が自由に使える時間がない」また「子育てに追われ社会から孤立するように感じる」もそれぞれ全体の25%（55人）、15%（33人）であり、子どもを育てている中で孤独感や疎外感を感じている母親も多いことが分かる。

「幼稚園に入園する前、子育てに関して誰に相談したか」については図20に見られるように夫と育児仲間がほとんど同じ割合を示し、それぞれ全体の50%（110人）、49.5%（109人）と半数を占めている。「相談しなかった」も12人おり（全体の5%）、予想外に高い数値を示していた。

家族ぐるみで付き合っている育児仲間の存在については図21に見られるように全体の73%（162人）が「いる」と回答している。それは図22のように「自分の友達である」ことが全体の72.8%（118人）であり、大多数を占めている。公園で知り合った友達と家族ぐるみの付き合いになっていくのも17.9%（29人）と案外高い数値を示している。

一方、「家族ぐるみで付き合う育児仲間がいない」と回答した人の中で、最も多くあげられた回答は図23に見られるように「必要がない」という理由であり、全体の38%（23人）を占める。また「関係をわずらわしいと思う」と回答したものも16.6%（10人）いた。

これらの結果から、子どもは母親との関係の中で育てられていくが、母親は子育ての責任を負担

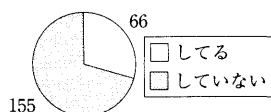


図15 入園前の習い事

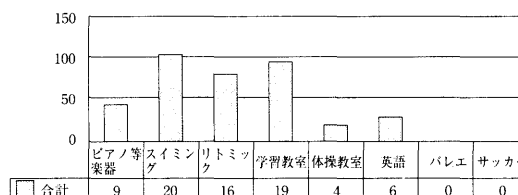


図16 習い事の内容

3歳児が幼稚園生活に適応するプロセス I

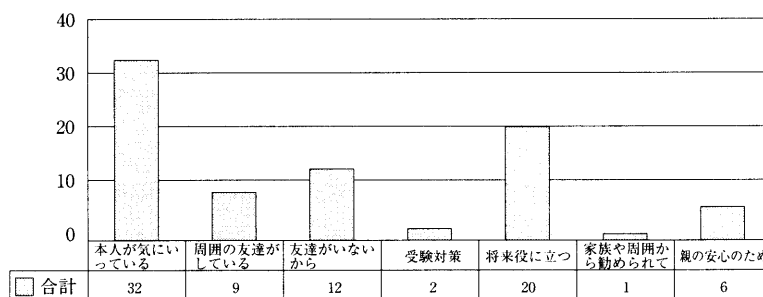


図17 習い事をしている理由

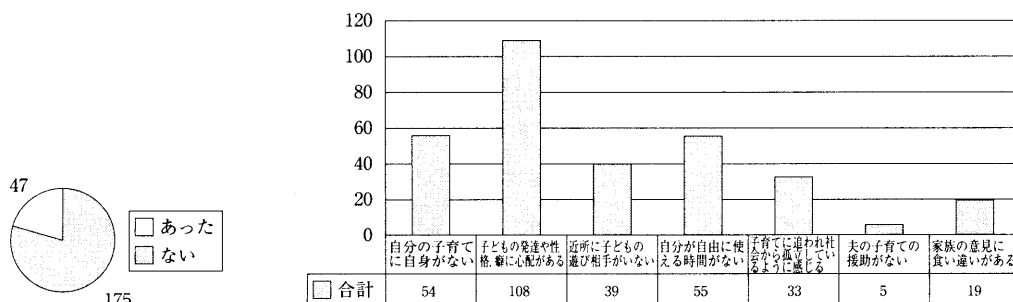


図18 子育て不安について

図19 子育て不安の内容

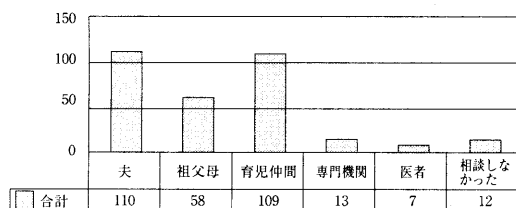


図20 幼稚園入園前の育児の相談相手

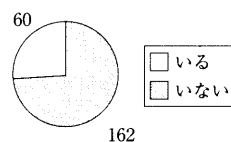


図21 家族ぐるみで付き合う育児仲間

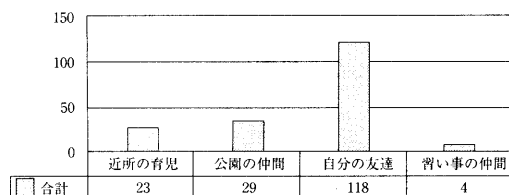


図22 どのような育児仲間か

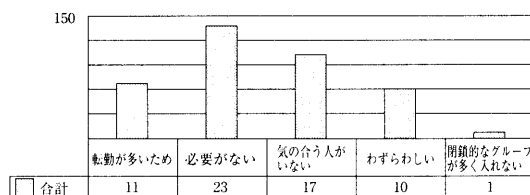


図23 家族ぐるみで付き合う育児仲間がない理由

に感じ、不安を抱えながら子どもと過ごしていることが分かる。また子育てをしていても自分の時間が欲しいと望んでいる母親の姿が見えてくる。

3. 幼稚園に入園したときの子どもの様子について

3 歳児から幼稚園にいれようと思った理由は図24に見られるように「早期に集団生活をしたほうがよいと思った」が64.5%（142人）と多くを占めているが、「近くに友達がいなかったから」という回答も39%（86人）あった。また「母親自身の自由な時間がほしい」という回答も29%（64人）と高い数値を示しており、母親側からの入園理由も高い割合を占めていた。

「幼稚園入園当初の登園の様子」では図25に見られるように「自分から積極的に登園した」と「とくに不安な様子もなく登園した」を合わせると全体の65%（144人）の子どもが不安なく幼稚園に通っている。しかし35%（78人）の子どもたちは何らかの不安を抱えて登園し、そのうちの17%の子どもは登園を嫌がっていたという。

「自分から積極的に登園した」あるいは「とくに不安な様子もなく登園した」理由は図26に示してある。その回答の中では「幼稚園の教師がしっかりと受けとめてくれたため」というのが最も多く、65%（84人）であった。「すぐに好きな遊びが見つかった」「入園前に同年齢の子どもと遊ぶ経験が豊かであったため」というのもそれぞれ高い割合を示している。

一方、登園を嫌がった理由としては図27に見られるように「母親と離れること」が第1の理由としてあげられ、全体の85.8%（67人）を占めている。

「子どもの不安な様子に対しての母親の気持ち」は図28に見られるように、「子どもにとって初めてのことから泣くのもしかたがない」あるいは「とくに心配はしなかった」と子どもの不安な気持ちを受けとめているのが全体の77%であった。しかし母親自身も不安になってしまったり、子どもを怒ってしまったという態度も全体の33%を占めている。

「子どもが不安なく、また泣かずに登園するようになる日数」は図29に見られるように「1週間」が最も多かった。また全体の60%の子どもが「10日間程」で不安なく通うようになっている。その反面、1ヶ月以上不安な気持ちで登園する子どもも16%（13人）いる。

「子どもが不安なく登園するようになった理由」としては図30に見られるように「幼稚園での生活がよく分かってきたから」と「担任教師との信頼関係ができたから」というのが高い数値を示し

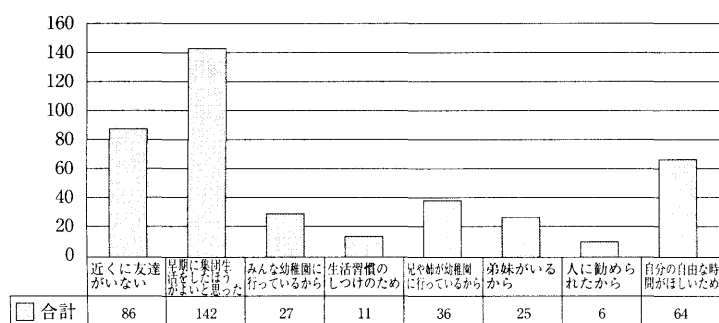


図24 3 歳児クラスに入園する理由

3 歳児が幼稚園生活に適応するプロセス I

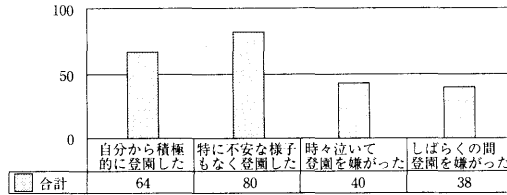


図25 幼稚園入園当初の登園の様子

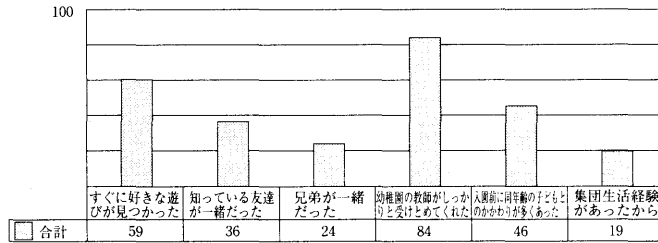


図26 不安な区登園した理由

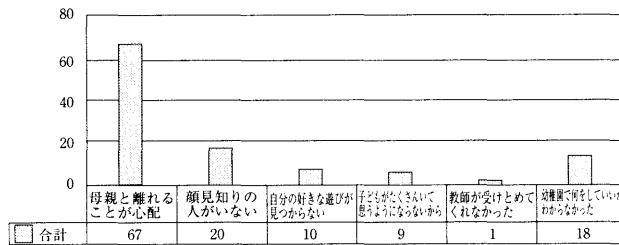


図27 入園当初不安であった理由

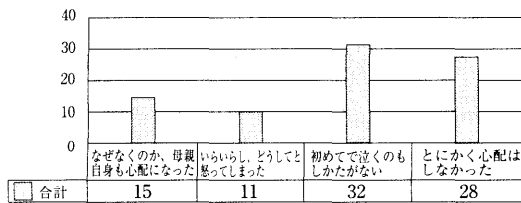


図28 子どもの不安な様子にたいする母親の気持ち

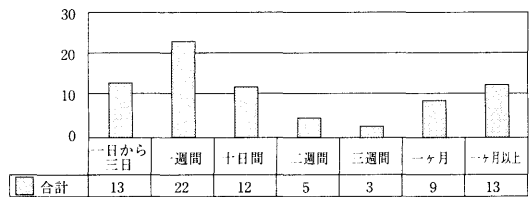


図29 不安なく登園するのにかかった日数

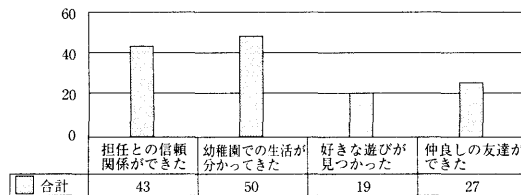


図30 不安なく登園するようになった理由

ている。

これらの結果を見てみると、幼稚園にスムーズに適應するためには仲間と遊んだことの経験が豊かであることや自分で遊びを見つけることができることと同時に、子どもを送り出す母親や初めて子どもと関わる幼稚園の教師がどのような思いで子どもたちを受けとめるかが重要になってくることに気づかされる。子どもが未知な世界で生活をしようとするとき、子どもに関わる大人が側面から援助し、支えることがスムーズな適應につながるのである。

4. 幼稚園入園後の子どもと母親の変化について

子どもが幼稚園に入園してからの変化について、図31を見てみると「友達が増えた」あるいは「友達と一緒に遊ぶことが多くなった」と入園によって対人関係が広がってきたこと、また、幼稚園という場に行くことによって、いろいろなことに興味を持ち、積極的になってきたというプラスの面での変化が多くみられる。一方で「言葉が悪くなった」というようなマイナスの面も見られるが、これも集団生活をしていく中で、必然的に起こってくることであり、結果的には友達との関係が深まってきているということでもある。

図32は幼稚園に入園後の母親の変化について示している。これを見ると、子どもと同様に「友達が多くなった」という割合が高い。また、「子どもが幼稚園に行くようになって自分の時間が持てた」という割合も高く、子育て以外のことに気持ちが向かい、精神的にゆとりがでてきたことが分かる。一方、幼稚園に入園させたためにいろいろな用事ができ、却ってわずらわしい思いをしているという結果も見られた。

5. 子どもが初めて幼稚園に入園したことに對する母親の感想（自由記述）

母親に子どもが初めて幼稚園に入園したことに對して自由に記述をしてもらった。回答率は56.3%であり、半数以上の母親が記述したことになる。図33にはその記述の内容をまとめたものを示している。最も多いのは「入園後の子どもの変化について」であり、その他「母親自身の変化」「3歳児入園について」「入園時の分離不安について」「教師について」「母親同士の関係について」が記述されていた。

母親が幼稚園に子どもを通わせる中でさまざまに感じる内容は、これまで示してきたアンケート結果の数字で示せるものではない。ここでは、母親の幼稚園あるいは子どもに対する思いを、ありのままの形で示し、母親の気持ちを明らかにしていく。なお、かっこ内の数字は（例1-1）調査票の整理番号を表している。

(1) 幼稚園入園後の子どもの変化について

今まで家庭の中で母親と共に過ごしていた子どもが新しい世界に入り、母親自身が気がつかなかった子どものいろいろな面に驚いたり、子ども自身の成長していく力に感動している記述が多い。

3歳児が幼稚園生活に適応するプロセス I

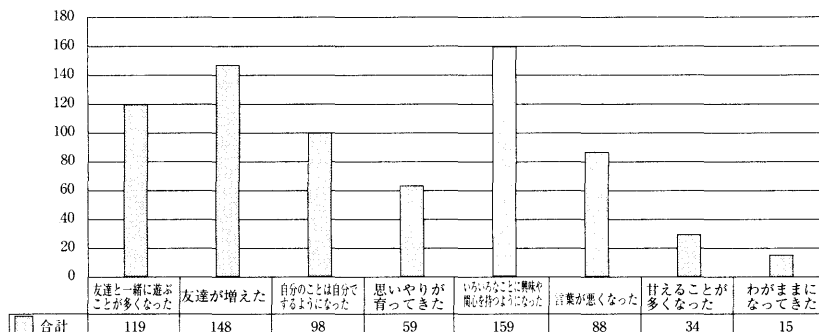


図31 幼稚園入園後の子どもの変化

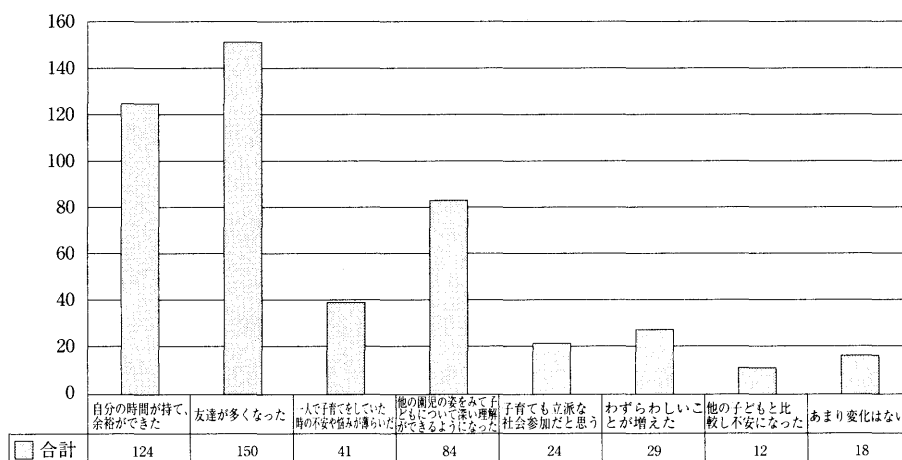


図32 幼稚園入園語の母親の変化

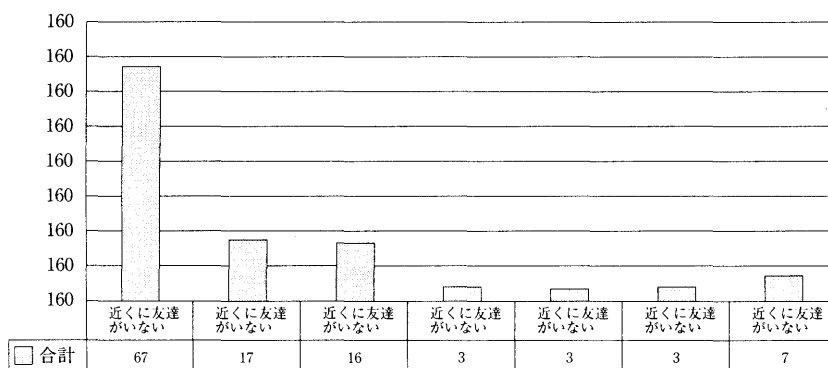


図33 自由記述の内容

自由記述（1－1）

子どもは小さくても自分という人格をしっかりもっており、子どもなりに感じて成長しているので親は困ったり頼られたりする時には手助けが必要だが、あとは子どもにまかせた方がいいと感じます。子どもは親が考えるよりずっとしっかりしていると思います。しかし、まわりは過保護な親が多いのが気になります。

自由記述（11－1）

初対面の子とある日突然、集団で生活し、親から離れて先生の元で1日をすごすというペースは親が考えた以上に大変で緊張の連続だったろうと思い、年少で入園させた自分はもしかしたら「早すぎたかしら」と春には心配でした。でも、子どもは子どもなりの力で一生懸命園生活、友人関係を1日1日身につけていき、その姿がとても力強くこちらの方が驚きました。親が一方的に考えている子どもの姿と、園へ通わせてからの集団生活の中の1人の子どもの姿は全く別でした。（いい意味で）こういう期待の裏切られ方も新鮮で楽しいものだなと思う様になりました。

自由記述（195－2）

子どもは子どもなりに集団生活、人間関係などにおいて頑張っているのだと思います。家で保護するだけでは自分の力で問題を解決しようという気持ちもあまり育たないのですが、友達と仲良くしたりけんかしたりする中で、自分でどうにかしようと考えているようです。子どもは私たちが思っている以上に、しっかりいろいろなことを感じているということがわかりました。

(2) 母親自身の変化について

子どもが幼稚園に入園して友達と関わり、自分の世界を広げていく姿を見て、母親自身も気持ちにゆとりが出てきたり、子どもの見方が変わってきたという前向きな変化についての記述がほとんどであった。

自由記述（44－1）

子どもはあらゆる環境に対して対応していくのが大人より早く、慣れている。しかし子どもなりに精一杯集団生活の場で自分の身の置き場や自分自身を発見（遊び、したいことを通し

て) することはたとえ数時間でも大変な労力だということを感じます。そんな中で帰宅後のスキップや身体を十分に休ませることがいかに大切なことで、又明日頑張るエネルギーを家庭で養うことが最も重要なことだと痛切に感じます。その一瞬一瞬が大切であり、子どもが要求してきた時、即受けとめてあげられるアンテナを張りめぐらし、そんな心の拠り所になることが母親の役目だと思います。

自由記述 (119-2)

2 人目だったせいか、育児にはじめから不安はなかったのですが、子どもの数が増えてから自分の時間が持てないイライラが増えていました。子どもが幼稚園に慣れてほっとしています。子どもから離れて 1 人になる時間を持てることにより冷静に子どもを見ることができるようになりました。

自由記述 (197-2)

人見知りがひどく入園前はとてもわがままな子だと思っていましたが、意外にちゃんと集団生活もできて順番やルールをきちんと守れる子だということも知りました。子どもは親が思っている以上に早く成長するし、集団生活の中にいる子どもを見て、初めて気づく子どもの良い所もあるのだということを知りました。そんなことに気づいてから、私も肩の力を抜いて子どもを見守れる余裕が少しでてきたように思います。

自由記述 (214-2)

私が待つ“姿勢”，少しずつ成長していく子どもの姿を“受けとめる”姿勢ができてきた気がします。

(3) 3 歳児入園について

3 歳児で幼稚園という集団生活の場に入れるべきかどうか迷っていたという記述がすべてである。入園させる場合、自由保育であるか否かも大切な問題であるとの指摘も多い。

自由記述 (58-1)

年少から入れてしまうと幼稚園に慣れ過ぎてしまったり、可愛い盛りに手離してしまうなどといわれて、3 年間の保育に出すべきかどうかとても迷いましたが、やっぱり入れて良かった

と思いました。子どもが周囲にいない環境で育児サークルで月2回仲間と集まっていましたが、やはり子どもは子どもの中で遊んでいる方が生き生きしています。友達との関わりの中でしょげたり、ちょっとけがしたりいろいろな出来事がありますが、周囲の方々の暖かさの中で嫌がることなく毎日元気に登園できていることが感謝です。

自由記述 (172-2)

入園前は姉の友達など年上のお友達に遊んでもらう、面倒を見てもらう立場でいたので、同年代のお友達との関わりが比較的少なかった。それで3年保育で入園させたが、早生まれで、入園時はおむつをしていたり、少し時期的に早かったのかと思えたが(1ヶ月近く登園時に泣いたので)、先生との信頼関係、園生活の流れ、お友達とのやりとりなどが自分の中で納得できるものになってからは、おむつもスパッと外れ、毎日喜んで行くようになった。しかしやはり体力的には3年保育の間はハードなところもあり、また精神的にも休養が必要なときもあり、お休みは多かった。経済的な負担も大きいがそれを越えるものを感じ3年保育で入園させた。

自由記述 (194-2)

うちの場合、通勤族のためなかなか友達ができにくかったり、家の周りに同年代の子がいなかったり、1人っ子だったりといろいろなことを考えて3年保育を選びました。3歳という年齢はまだまだ母親と一緒にいたい時期で2年保育でも十分だとは思いますが、息子の幼稚園は自由保育ということもありとてもよかったと思っています。幼稚園に行く前は1日をだらだらと過ごしてしまったり、一緒にいる時間が当たり前すぎて毎日に変化がなく子どもを主観的に見てしまいがちでしたが、園に通う様になり、当たり前ですけど子どもは成長するものだ認識し、子育ての大切さを実感しました。

(4) 入園時の分離不安について

初めての集団生活に子どもが感じている不安や戸惑いに対し、母親自身の気持ちも様々に揺れ動いている様子が見える。

自由記述 (89-2)

入園後2日間は自分から元気に登園しましたが、3日目からあやしくなり、4日目には親にしがみついて離れない状態でした。初めは幼稚園がどんな場所かわかっていなかったのが分かり出して急に不安になったのだと思います。担任の先生と話し合い、しばらくは親も園で過

ごし、時間が来たら引き離すといったやり方を重ねながらようやく1学期を終えました。

2学期も半ば、元気に家をでるものの園が近づくとなんか元気がなくなり、部屋の前で先生に声をかけてもらえないと中に入れないという現在です。園の中では元気に遊べ、帰りは非常に楽しかった様子を見せてくれるのに本質的には幼稚園には行きたくないのです。息子にはまだ幼稚園早すぎたのだろうか。今までの子育てがいけなかったのだろうか、親として反省させられている今日この頃です。又、他のお子さんと比べたりするとがっかりすること多いですが、親が見落としている点を先生からあらためて話していただいたり、少しずつでも成長している様子をまわりから聞かされたりすると、これは彼の性格なのだ、どんな小さいことでも成長していることを一つ一つ認めてあげなければいけないのだと、親自身を見つめ直す機会ができました。

自由記述 (184-2)

3歳3ヶ月で入園しましたが、姉の様子を見てきて送り迎えで慣れ親しんだ園であるはずと安心しきっていたところに1～2週間無事に過ぎてからの渋りでした。大泣きで暴れるというより甘えてという感じで担任の先生も姉の方の先生も理解して下さり、しばらく姉のクラスで朝のうち過ごし、落ち着いたら自分の部屋で配慮してくださいました。大勢の友達と触れ合うこともなく今まできて、ましてまだ友達とのやり取りのへたな3歳児のこと。好きな友達と他の子の三角関係やら子どもなりに悩んだりもしたりしたようですが、そのつど先生の配慮があり、ひとつひとつ乗り越えてきたようです。

(5) 教師について

初めての幼稚園生活に入るにあたり、教師との信頼関係が大切であるという記述がほとんどであった。

自由記述 (69-1)

幼稚園での生活を全く話さない子でしたので心配、不安が尽きませんでした。連絡ノートや送迎時の担任の先生とのやりとりを通し、親とのコミュニケーションが十分に図ってもらえて信頼して保育していただけた。担任の先生と親との間の(子どもの)情報交換が慣れていくまでの過程では特に大切だと思いました。

自由記述 (160-2)

幼稚園の先生の子どもに対する受けとめ方により子どもは伸びていくのだと思いました。親や知り合いの人の愛情とはちがう、大切な愛情だと思います。

(6) 母親同士の関係について

母親同士の関係について記述されたものは3通と少数であるが、いずれも母親同士の人間関係に悩んでいるという記述であった。

自由記述27 (79-1)

お友達がいなかったので早く園になじんでお友達をいっぱい作ってほしいと思っていました。でもなかなか友達の名前を自分から楽しそうに話すことはなく、9月に入ってからやっと新しいお友達の名前を聞きました。どうも娘は女の子のグループに入れずはじかれていたような気がします。私はそれはそれでいいとは思っていましたが、娘はたえずイライラしていたように思います。4月に年少に入ってからすぐ、お母さま同士仲良くなった輪がそのまま子どもの世界にも入っているのではと思いました。私のせいで子どもが悲しい思いをしているのではないかと、私なりにいろいろ努力をしてみました。1回できたグループにはなかなか受け入れてもらえなかったようでした。親がしっかりした考え方を基に育てようと思っても、園が終わったあとも親も子もお友達づきあいなどをしなければならないなんてとずいぶん悩みました。今の子ども社会はなかなか複雑なものがあるんだと思います。

Ⅳ. ま と め

1. 入園前の子どもと母親の置かれている状況

アンケート調査の結果から、大宮市近郊に住む子ども達は平均3人の遊び友達を持ち、毎日、あるいは時々母親と一緒に公園など外に出て遊ぶ機会も多く持っている。

一方、母親の置かれている状況について考えてみると、核家族化された現代社会の傾向がそのまま家庭内の子育てにあらわれている。夫と妻という世帯では専業主婦である母親が必然的に子育ての中心となっている。そして母親のうち約8割が子育てに対して不安を抱えている。そのような悩みを相談する相手として夫と育児仲間があげられているが、これは子育てが世代間伝承から同世代での連携の中でなされるようになってきたと受けとめることができる。「子育ての中で孤立感を感じている」あるいは「自分の時間が持てない」と子育てだけに時間も気持ちも向かわなければならないことに焦りを感じ、満足感が感じられない母親も多い。

しかし子どもが幼稚園に入園し、母親も同じ悩みを持つ母親同志と親しくなったり、教師と関わ

ること、あるいは他の子どもを客観的に見ることによって、育児不安が解消されていくケースが多いことも、アンケートの中の自由記述を通して分かった。「子どもに手がかからなくなった」「幼稚園に入園することで一日中、子どもと向き合わなくてもよくなった」と幼稚園入園をきっかけに母親の育児意識に変化が見られるということは、幼稚園という場が子育てをしている母親にとって、重要な役割を担っていると考えることができる。

2. 幼稚園入園時の子どもの適應について

幼稚園に入園した子どもの66%は不安なく幼稚園に登園しているが、登園を嫌がったという子どもも4割いる。しかし、不安を抱えた子どもも担任との信頼関係を築くことによって、幼稚園が安定の場となってくるのである。また幼稚園での生活方法が理解できることも、スムーズな適應のために重要なことである。これによって、幼稚園内での自分の位置が定まってくるとともに、自ら幼稚園という環境に働きかけることが可能になってくる。

このアンケート調査から、幼稚園生活に適應するためには、今までの生活の中心だった家庭と幼稚園との間を橋渡しする役目が必要となってくることが見てとれる。それは家庭においては母親であろうし、幼稚園の中では担任教師である。特に子どもにとって、この両者の子どもを受容する態度、それにその時々必要とされる援助があって、はじめて子どもは幼稚園を「楽しいところ」と感じ、適應していくのである。

3. 今後求められる幼稚園の役割

幼稚園は幼児が教師や他の幼児と生活する中で、遊びを通して人と関ることの基礎を学ぶ場である。しかしこの調査結果から、幼稚園が家庭での親の子育てや母親の子育て不安に少なからず貢献しているということが分かる。子どもが幼稚園に入園することは、ただ単に幼稚園が子どもを迎え入れるということだけではなく、子どもの背後にある家庭をも受容するという意味を持つことなのである。

現代のように幼児を取り巻く養育環境が大きく変化している中で子どもを育てようとする場合、子育てに不安を抱えた母親や、子育てに関しての知識が乏しい家庭を支える場が必要であり、その役目を幼稚園が担っていくことを求められている。幼稚園がその置かれている地域の実態に目を向け、地域の子育てのニーズに応えていくことが、幼児の生活を全体としてより豊かなものにしていくことができるのである。

〈感謝〉

アンケート調査に関しましては植竹幼稚園、聖学院みどり幼稚園に多大なる協力を得、資料を収集することができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

引用文献

- (1) 文部省小学校課・幼稚園課編集 初等教育資料 幼稚園年鑑 平成10年度版 No. 692 9月号臨時増刊, 東洋館出版社, 平成10年, p. 12~13
- (2) 文部省小学校課・幼稚園課編集 初等教育資料 幼稚園年鑑 平成10年度版 No. 692 9月号臨時増刊, 東洋館出版社, 平成10年, p. 22
- (3) 黒丸正四郎「3歳は第2の誕生」現代保育 Vol. 33, チャイルド社, 1985, p. 4~7
- (4) 藤永 保「3歳児の発達と集団保育」現代保育 Vol. 35, チャイルド社, 1987, p. 9~13
- (5) 岡田正章「少子時代の乳児保育」児童心理12月号臨時増刊号・第41巻第16号, 金子書房, 1987, p. 3~13
- (6) 森上史朗「人間関係の基礎づくりとしての幼児教育」初等教育資料5月号, No. 658, 東洋館出版, 1998, p. 78~84

参考文献

- (1) 小川信夫『情報化社会の子どもたち』玉川大学出版局, 1993
- (2) 小川信夫『少子家族 子どもたちは今』玉川大学出版局, 1995
- (3) 神長美津子「3歳児の生活とその指導—自我の芽生えを培うために—」初等教育資料8月号 No. 671, 東洋館出版, 1997, p. 82~88
- (4) 野村睦子「幼児一人一人の育ちを支える援助のあり方を考える」初等教育資料6月号 No. 596, 東洋館出版, 1993, p. 80~86

参 考 資 料

子どもの養育環境と幼稚園生活への適応に関する調査

お子さんと家族についてお聞きします。

- 問1 あなたのお子さんは何歳で幼稚園に入園しましたか。
1. 3歳児 2. 4歳児 3. 5歳児
- 問2 お子さんの性別は。
1. 男 2. 女
- 問3 お子さんは何人兄弟ですか。
1. 一人 2. 二人 3. 三人 4. 四人以上 (人)
- 問4 そのおさんは兄弟の上から何番目ですか。
1. 一番目 2. 二番目 3. 三番目 4. 四番目以上 (人)
- 問5 あなたのご主人は何歳ですか。
(歳)
- 問6 あなた(お母さん)は何歳ですか。
(歳)
- 問7 家族構成についてお聞きします。
1. 核家族 2. 夫の親と同居 3. 夫の親とその家族が同居 4. 自分の親と同居
5. 自分の親とその家族が同居 6. その他 ()

幼稚園に入園する前の子育ての様子についてお聞きします。

- 問8 子育ての中心となっているのはだれですか。
1. 母親 2. 父親 3. 祖父母 4. その他 ()
- 問9 お子さんが幼稚園に入園する前によく遊ぶ友達はいましたか。
1. いた 2. いない
- 問10 〈問9で1.と答えた方のみお聞きします〉
a 何人ぐらいいましたか。
(人)
b どこで友達になりましたか。
1. 公園 2. 児童館 3. 図書館 4. 体育館など体育施設 5. 文化施設
6. 家が隣近所だった 7. その他 ()
- 問11 お子さんによく利用していた近くの公共施設はなんですか。
1. 公園 2. 児童館 3. 図書館 4. 体育館など体育施設 5. 文化施設
6. 身近に公共施設がなかった 7. その他 ()
- 問12 公園、その他の公共施設にはどのくらいの割合で行きましたか。
1. 毎日 2. 一日おきに 3. 三日おきぐらい 4. 五日に一度ぐらい
5. たまに行く程度 6. 行かなかった 7. その他 ()
- 問13 公園など同年齢の子がいる場面で、お子さんはどのような様子でしたか。
1. 積極的に自分から同年齢の中に入り遊ぼうとしていた
2. 近くにいれば一緒に遊ぶ程度
3. 関心はあるが自分からは関わりを持たずとしない

3 歳児が幼稚園生活に適応するプロセス I

4. 自分のペースで一人で遊ぶことが多い
 5. 同年齢の子どもがそばにいと嫌がる
 6. その他 ()
- 問14 公園、その他の場所で他のお子さんを連れてくるお母さんに対して、お母さんはどんな態度でいることが多いですか。
1. 他のお母さんに積極的に関わり、すぐに親しくなる
 2. 自分からは声かけられないが、かけられればそれに応じる
 3. 関わりを持つことが苦手で、声をかけられないように目立たないようにしている
 4. 顔見知りのお母さんとは話すが、そうでなければ自分の子どもと遊んでいる
 5. その他 ()
- 問15 幼稚園に入園する前に何か習い事をさせていましたか。
1. はい 2. いいえ
- 問16 〈問15で1. と答えた方のみにお聞きします〉
- それはどのような習い事ですか。(複数可)
 1. ピアノや楽器関係 2. スイミング 3. リトミック 4. 学習教室 5. 体操教室
 6. 英語 7. パレエ 8. サッカー 9. その他 ()
 - なぜ、その習い事をさせているのですか。(複数可)
 1. 本人が気に入っているから 2. 周囲のお友達がしているから
 3. 近くに友達がいないから 4. 小学校受験対策 5. 将来役に立つように
 6. 家族や周囲から勧められて 7. 親の安心のため 8. その他 ()
- 問17 お子さんを育てていて不安や悩みを持ちましたか。
1. はい 2. いいえ
- 問18 〈問17で1. と答えた方のみにお聞きします〉
- それはどんな不安や悩みでしたか。(複数可)
 1. 自分の子育てに自信がない
 2. 子どもの発達や性格、癖などに心配がある
 3. 近所に子どもの遊び相手がない
 4. 自分が自由に使える時間がない
 5. 子育てに追われ、社会から孤立するよう感じられる
 6. 夫の子育てへの援助がない
 7. 子育てについて家族の意見に食い違いがある
 8. その他 ()
- 問19 幼稚園に入園する前、子育てに関して不安や悩みがあったとき誰に相談しましたか。
1. 夫 2. 祖父母 3. 近所の育児仲間 4. 育児相談の専門機関 5. 医者
 6. 誰にも相談しなかった 7. その他 ()
- 問20 家族ぐるみで遊んだり、話したりする育児仲間はいいますか。
1. はい 2. いいえ
- 〈問20で1. と答えた方のみにお聞きします〉
- 問20 a それはどのような仲間ですか
1. 近所の育児サークル 2. 公園の仲間 3. 自分の友人
 4. お教室や習い事の仲間 5. その他 ()
- 〈問20で2. と答えた方のみにお聞きします〉

問20b なぜ、そのような仲間がいないのですか。

1. 転勤が多いため
2. 特に必要がない
3. 気の合う人がいない
4. わずらわしい
5. 閉鎖的なグループが多く、入れない
6. その他 ()

幼稚園に入園した時のお子さんのようすについて

問21 3 歳児から幼稚園にいれようと思った主な理由はなんですか。(複数可)

1. 近くに友達がいなかったから
2. 早い時期から集団生活をしたほうがよいと思ったから
3. みんな幼稚園に行っているので行かせたほうがよいと思ったから
4. 生活習慣のしつけを幼稚園でしてほしいと思ったから
5. 兄や姉が幼稚園に通っていたから
6. 弟、妹がいたから
7. 幼稚園に入園したほうがよいと人から勧められたから
8. 自分(お母さん自身)の自由な時間がほしいと思ったから
9. その他 ()

問22 幼稚園には不安なく通い始めましたか。

1. 自分から積極的に登園した
2. とくに不安な様子もなく登園した
3. 時々泣いて登園を嫌がった
4. しばらくの間登園を泣いて嫌がっていた

問23 〈問22で1. と2. と答えた方のみにお聞きします〉

- 不安なく幼稚園に通ったのはなぜだと思いますか。(複数可)
 1. すぐに好きな遊びが見つかったため
 2. 知っている友達と一緒にだったため
 3. 兄、姉と一緒に通っていたため
 4. 幼稚園の先生がしっかりと受けとめてくれたため
 5. 入園前に同年齢の子どもたちと遊ぶ経験がたくさんあったため
 6. 集団生活の経験があったから
 7. その他 ()

問24 〈問22で3. と4. と答えた方のみにお聞きします〉

- お子さんが不安な様子であったのはなぜだと思いますか。(複数可)
 1. お母さんと離れることが心配であったため
 2. 顔見知りの人がいなかったため
 3. 自分の好きな遊びが見つけれなかったため
 4. 子どもがたくさんいて、自分の思う通りにできなかったため
 5. 幼稚園の先生がなかなか受けとめてくれなかったから
 6. 幼稚園で何をしてもよいのか分からなかったため
 7. その他 ()
- お子さんが不安で泣いている様子に対して、お母さんはどんな気持ちでしたか
 1. なんでもくんだりうとお母さん自身も心配になってしまった
 2. 泣く姿にいらいらしてしまいどうしてうちの子が、と少し怒ってしまった
 3. 始めてなんだから泣くのもしかたがないと思っていた
 4. すぐに慣れると思い泣いてもとくに心配することもなかった

5. その他 ()
- お子さんが泣くことなく登園するようになるのにどのくらいの日数がかかりましたか
1. 一日～三日間 2. 一週間程度 3. 十日間程度 4. 二週間 5. 三週間
5. 一ヶ月 6. 一ヶ月以上 7. その他 ()
 - 不安なく登園するようになったのはどうしてだと思いますか。(複数可)
1. 担任の先生との信頼関係ができてきたから
2. 幼稚園での生活がよく分かってきたから
3. 好きな遊びが見つかったから
4. 仲良しの友達ができきたから
5. その他 ()
- 問25 お子さんは幼稚園に入園してからどんな変化がありましたか。(複数可)
1. 友達と一緒に遊ぶことが多くなった
 2. 友達が増えた
 3. 自分のことは自分でしようとするようになった
 4. 思いやりが育ってきた
 5. いろいろなことに興味や関心を持つようになってきた
 6. 言葉が悪くなってきた
 7. 甘えることが多くなってきた
 8. わがままになってきた
 9. その他 ()
- 問26 お子さんが幼稚園に入園してから、お母さんにはどんな変化がありましたか。
1. 自分の時間が持てるようになり、気持ちにも余裕ができた
 2. 他の園児のお母さんと出会って、友達が多くなってきた
 3. 一人で子育てをしていた時の不安や悩みが薄らいだ
 4. 他の園児の姿を見て、子どもについてより深い理解ができるようになった
 5. 子育ても立派な社会参加だと思えるようになってきた
 6. わずらわしいことが増えた
 7. 他の子どもと比較したりしてかえって不安になってしまった
 8. あまり変化はない
 9. その他 ()
- 問27 お子さんが初めての集団生活である幼稚園に慣れていく姿を通して、何かお感じになったことがございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。